

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本の女性問題とは何か
Author(s)	ナタリア ゼクリア,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1993 : 83 - 91
Issue Date	1994-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039351
Right	
Relation	



日本女性問題とは何か

ナタリマ・ゼクリア

てをポ運し一私で
 したレム。ポはの
 こりのズウレと
 起キ。ミみこ統め
 呼はかエて。と
 も性のフしるいま
 論、女と討あな
 議、状態核がく
 いか状態を全づ
 熱向左のこは基
 はん性こいとに
 動割と女うな方話
 運役体るいう判の
 ムな一けと本批人
 ズ主はかかばの本
 ニのよに何れて日
 ミ性等会はけしと
 ヲ女平社と本対報
 フて女代題かに情
 るい男現問題方に
 あおと性てさう
 でにし史文、生か
 徴生と歴る言のミ
 特人、のげに性コ
 のとか本上前女ス
 会社会さ日りの本マ
 社社べは取と日
 代。すでが、は年
 現る指ト家して一
 い目一動かトがあ

に型守B、在、同割る。もに平あど、移しる。実文朝方地中性、下ら中急
 中Aをる。と有て「其役い物代とてたにへにいて、と王朝の地の性、女な低か
 ので度あににじは性(時代)てたに日本とて産。て性たのには半級は
 性中家び性本通性、れ産始男時れ同日をき、生た、女女い時代半位後階の
 女のは性女日て女は百生原りたかと代を生あに、よるうかめ家がの世貴う
 本ト女をらまのて之のめ負、思る古法がで後かにうかめ家のの世貴う
 日一、3躍か代代い伝料たをあとあが準始前のさ性へ級じ武た性六。い
 、ホさす治昔時時おと資の担でたで本基原建化大女与階はるい女はた
 せレ衝急のは治始にた治と負陽い者日のだは文がのて族しゆて、治九長
 ので専ぶ性明原代、生。の太て有始国まれ費力期し貴行わルで生ま家
 くこ外に場女う。時かとする産が、所原中、と浪の配とず移いう中性たは
 方。は度職型からの方()い生性持のは。で、と浪の配とず移いう中性たは
 する「男家、A始よこんとて料女を術代た由が大()の印は婚け支しの女覚九
 究かほじい。原み。ゆこん資るり技時、自た「巨た族て当取おで返代下()
 研劣性的思るをてるうおさ治ゆか産良あはいのし貴、本嫁に士り時制
 くが女底とあ史しあ産定生ゆな生幸で態て代担朝よ。は紀武線戸体長
 深と型徹いび歴討ではを規はいつ、⁽²⁾期突れ時分王にた。嬌世がの江藩父
 もこA、古性の複性て供に性そと術た⁽²⁾。期突れ時分王にた。嬌世がの江藩父
 問いよあ方う日程の(要素女こ権技、の治め奈等紀文あ招十幕戦たのの
 性よけぐと思。過で別産の負当が生で令たがたを二麗⁽⁴⁾で三鎌めな支儒
 女をつ成考とるた制差生つも、性、心律い位、力十華覚婚⁽⁴⁾の半は人川
 とが糸にうあて成共が命り負かて「哺のたれ男で生一代は。の結は半は人川
 すプ名石よとてブ形始た生いのし仰、て当ら。位との十時さたうの化が盛徳て
 らイウこのとイが原しはと産。信くしにめた優とはの高めい世族婚で着
 暮夕い考こニタブリ在治)生た始方と期決、性、性との始と中黄結ま定
 でのと性はなたイ型存生と命、原で軸時であ女め女。養り性。が略新に
 本つ型い性要きたイ型相がのこ生あ。原で軸時であ女め女。養り性。が略新に
 は二Bと女重てしこ体分人作は等、丸血行たも生代れとが下女り士政維新に
 日二Bと女重てしこ体分人作は等、丸血行たも生代れとが下女り士政維新に

と愛しうんをこの最男性労働者持
 の性、のモル時が位る。女やれ密縫
 刺女た二果一当る地かたせとの係を。なた軍なて化に番決的婚地位後た性み
 族いていり効ルはあの方、る立と関あるさく合さ。変姻一は法、の。わ型し
 うあつ、的属地見女、て育場と母の域響日常化。等たり女。現女方がと核
 いに持。法従の意、よ強子立子るた領影H非変た平しいてる化をク期し
 と内をたての性うれに拉産方があれ方左Gてのれの研究等あて方サの
 る旅力得し性女いと究のをり性てまま大。上さ利研等あて方サの
 であ、りけんる日本と立研産をよ女の生ご重ると法束権を平にの的めつこ、
 者しなづ一する、がまや子こたな性さ位り性うを相一性選れたをうた
 表かか裏タ対けか業ご続ご、要女の地子女い等②ラ両のわけとの丸い
 代レがのバにお高多ま継継た、ごにA生性律部策の平こけ相をじう女生に
 な。性法族性にり的このを、ごにA生性律部策の平こけ相をじう女生に
 的。女民家男内よ会は族家あを内での女法一政との。お婚由上いと造急こ
 公た、がて族の社と家、ごに族中人ははの性性で等に結自、と造急こ
 のして制、家々たこはての子家の本が化革女男下平婚。おばた構概の
 体透え長よ、国しう務、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 生滯支父にに代のにい任人、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 族でし家府ル時パ準と左にす有本条てく方領ゆい法判てあ合見と家しれ
 家まて政このッ基た要中属のてうおの本のいに①産おのの性変る。新こ
 、民励い治。こ口をれ重の従一まよに化基)は野。財にりく女によする
 り庶を明了。一別さご族に唯今の後変も部れ分る④法い多る向に開あ
 あに性にはあたヨ性に最象夫て、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 で代男代度ご、ごのてご、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 性時く時制のまご、ごのてご、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 男の上治族たしご代いと婚とにをさ二さご、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の
 的が情て方ら、ごのてご、ごはの件日つ交改るこのの婚。おばた構概の

動して、で。女1950はよ、生性持
 物しら中左の。1950はよ、生性持
 市にせ代始戦た、年長後況職
 都市にせ代始戦た、年長後況職
 都位左世丸、方の延の状か
 ら地。いさず、の生のと性
 かの左若収ま変成出命はり女
 村性、た吸。が26子寿によ。女
 農女なれにた齡は末と性
 で。と離々、年齡、少女こ丸
 向左素ら徐変の年で減た。わ
 志丸要かほく時の歳の丸た思
 のめ方代急し生数の丸た思
 業現要世觀著出出生放左
 職が重一等子子は出解にあ
 べ向は第平ル末末齡のにとご
 育傾)つ女クと、年終的こ、
 教る化持男イ年で婚子較い一
 がす増をたサ婚歳結る比左の
 代治の急れつ結23はれらう因
 世生族概さ一のは合らかな要
 いて家左らう性齡場子思ばの
 若丸核的左の女年のに育れ加
 離(統も性の婚性後にけ参
 後ら向「伝て女後結女戦は左の
 戦が傾て、ごののの)。半えへ
 大親方しよ、ごののの)。半えへ
 二めよに法に比の年代30、い業
 しご女新ご性年(歳てにの職

しに大大大コ育攻ウ。れ多オ影し
 と常短短短フ教書思ウの揮のよ
 。非の。いイ、をよめ性究婦
 いが子ぶすうは学認女に規主
 高学女選やうて工あにる様のを
 ず工、をしいい・が等す同会性
 ら・方卒業とお学由平にと社女
 わ学一大卒るに理理と攻性くも
 変理、期やめ扱めを性専男びて
 相、い短学や選たに男をを基い
 がは多くて人そのの他は学能にお
 幸でが人、事攻「の性工才親に
 学攻生望り仕専。と女・の性日
 進専学をあて、る、学分女今
 ののるれでしてあがに理自力、
 へ生すと性婚、でるの的てめ
 大攻が女結よ然あ照学い続た
 短子専背型、に当も対大お依い
 の女を女Aしれが見と。に、強
 手る政、が事とと竟度る野りだ
 女け家て数仕。こう度あ分ま
 てお・い多間るぶい、のつて
 いに育お的年あ選とてとこ。い
 お学教に倒数でをいこ、いおる
 に大・率丘後性攻たおうて太にお
 間期文高の業女専少に出来会が
 年短人の性卒ぶのが会とに出本
 30、学女、選ど性社い会は本傾
 の学く進くりを女は有社と日る
 去大の行人ス政す間て数る響て
 過て少へへに一家す間て数る響て
 け女いす迎まい2000で機、にが働のら、自)性期う活したこ加すの加い
 おさよ属てつ女約者働用で働困労力行よ、性変て育るるを働出に進だをめ
 にとたにし、の約働雇べ活要の働もに女変て育るるを働出に進だをめ
 場たよ半とる、金に男女調業ち置労変化。の、とれす向はに働も性働た
 職必支後者い貨年用男の職り大い変ンた上よ械長中心るまて業場て性補
 るても紀働てる77雇に年によ、若策、法に械長中心るまて業場て性補
 い、通経19場適か、1985、1991のて、下て一と特向やがを求い、とたか不足
 し、このは工に扱え、1985、1991のて、下て一と特向やがを求い、とたか不足
 こ史本階は性に増え、1985、1991のて、下て一と特向やがを求い、とたか不足
 起、のて一は女はよ年のと増性は成長率に一が変べのる教育入のマよあ場業力
 び、日本い第の場のがうち、が女究清出種やこ環境育家さはく、ト要中心の、労
 を日お出時職隷者うた者、が女究清出種やこ環境育家さはく、ト要中心の、労
 論、に進当く女働のめ働、研経との上か械就くてま解要せ、働一の性22%し
 いよ産職、がさ性、を用上多以のの場りとり、らなでて(、男にし「男
 熱し業性で女束、かの性1に60べ府様もをた深家のがにくうし年始低
 最て農女りの拘てし分女のと19レ政府様もをた深家のがにくうし年始低
 て討て本まく間い。3、分こ、育、政産者性れがが一つ安れなうし年始低
 い校し日始多時おた約束2たお教め、生働女性心性が一不こ方あた1969い
 おをよ。の、長にしの以約、ま。たた、生働女性心性が一不こ方あた1969い
 題力く化して後労体てのな、たたま、生働女性心性が一不こ方あた1969い
 間動つ業が要戦就全業者に、たたま、生働女性心性が一不こ方あた1969い
 業が工し必、が力出働ういあらた、半、女加、し来て女言加てに女
 必要に本らた、た性働が労よてでた、練、B会に。とこいたが方仕由
 性重と日れ問あ、の等雇すら必要を非、変、の短、高いい女ら、た理
 入学で(人)の時均性加げが小と、非、変、の短、高いい女ら、た理
 場万当会男参等力縮こて身に一般の左のと左にるよあせ
 過て少へへに一家す間て数る響て

1. 「女役割—性支配の分析—」、目黒依子、昭和55年
2. 「日本女性歴史」、1983
3. 「日本女性の生活史」、1977
4. 「世論調査報告概要」、平成4年
5. 「統計にみる女性の現状」、1991
6. 「生活と科学」、切板き速報、№10、12、6

- (1) 「日本女性歴史」 42頁
- (2) 「日本女性歴史」 43頁
- (3) 「日本女性歴史」 21頁
- (4) 「日本女性歴史」 38頁
- (5) 「世論調査報告概要」 60頁
- (6) 「統計にみる女性の現状」 46頁
- (7) 「統計にみる女性の現状」 48頁
- (8) 「世論調査報告概要」 27頁
- (9) 「女役割」 161頁